

## E2 科目について (3)

【ご意見・ご要望】（投稿日：2018年5月15日）

E2 科目について昨年度から意見をお送りしておりますが、納得できない点が多く、以下大きく2つに分けて意見致します。

1つ目です。

「1回生のE科目履修制限について(投稿日2018年4月12日)」を拝読しました。ご回答にある「E2科目についても主に2回生以上の履修を想定していますが」は、実際に授業を開講されている先生方の認識とズレがあると思いますし、「英語で学ぶ」ことを推進する目的からも間違った認識であると考えます。

KULASISでE2科目を検索すると、「主に1回生」「主に1・2回生」「全回生」（おそらく多い順です）が多く、「主に2回生」「主に2回生以上」など2回生以上を指定する科目はごく少数の数科目です（高度な物理の知識を必要とする発展科目、オリジナルの研究論文を講読する授業など）。制度を作る上で、実際に講義をされる先生方と認識が乖離していると思われるます。

また、英語は聞き取れるようになったり、話せるようになったりするまで、どうしても時間がかかります。2回生以降は学部専門科目が忙しくなり、気長に語学能力の上達を待つ余裕がない人も多いでしょう。できるだけ早く1回生の前期のうちからE科目（特にE2科目）に触れさせようとするのが語学教育として正しい方向性だと思います。もちろんそれを強制するのはよくないですが。

「段階的かつ継続的に『英語を学ぶ』ことを促す」とありますが、みんなが同じ段階を踏む必要はありませんし、「挑戦したい1回生から履修できることとしています」のように、不必要に心理的なハードルを上げる必要もありません。学生にはちゃんと考える力がありますから、できるだけ柔軟に自分のカリキュラムを組み立てられる環境づくりが必要です。段階を作ってあげようと思うのは、学生を馬鹿にしているとも見えます。

2つ目です。

「E2科目について(2)（投稿日2017年10月15日）」では、全てのE2科目を60人以下に制限する計画に反対しました。そして今年度実際にその計画が実行されたのですが、前回の意見をお送りするときは気づいていなかったこと、今年度にまた授業を受けて気づいたことを意見します。

上記の「1つ目」で申し上げた通り、英語は聞き取れるようになったり、話せるようになったりするまで、どうしても時間がかかります。心理的なハードルを上げて、E2科目を受けるのを後回しにさせようとするのは愚策です。

逆に、90 分間ずっと少人数で会話をするような高負荷な授業を受けなくても、半年くらいかければ自然に聞き取れたり話せるようになったりするというのが、京都大学で 1 年間過ごした感想です。ですので、200 人の大人数授業であっても 1 年生前期に気軽に受講しておけば、学期末くらいには不思議とリスニング力がつき、リスニング力がつけば先生の話し方を真似することができるためスピーキング力もつきます。すると、まだ時間割に自由度がある 1 回生後期にまた E2 科目を受けようという好循環が生まれるでしょう。

「全体的に英語力の底上げに期待し」とありますが、これでは勇気のある学生しか英語力が上がらないでしょう。もちろん E2 科目を必修に指定されていますから、無理矢理英語力が上がると期待されているかもしれませんが、なぜか成果は上がっていないように見えます。私は実際に 1 回生の 7 月末くらいまでは先生の話聞き取るのは難しく、ましてや話すことはかなり苦労していました。しかし英語で行われる科目が充実しているという京都大学の素晴らしい環境によって、いつの間にか聞く・話すができるようになっていきます。是非、ハードルを下げて間口を広げてほしいです。

また、「ILAS Seminar-E2 は 25 名以下の範囲で定員を設定する」ことになっていますが、実は 25 名というのは多すぎて全くコミュニケーションが成り立ちません。今年度は、ILAS Seminar-E2 を 2 科目受講していますが、10 人ちょっといると、先生が指名しなければなかなかコミュニケーションは成り立ちません。何も返答を思いついていなかった人が答えに窮し、答えたい人が答える機会がなくもどかしい思いをするという状態になります。活発にコミュニケーションが行われるのは 5 人くらいが限界です。

学生の気質によっては 10 人くらいまでは可能かもしれませんが。それを超えると、60 人でも 200 人でもコミュニケーションの量は同じなのです。ですので、コミュニケーションの活発化を期待して 60 人制限をするというのは、実際の授業がどのようなものかというのをよく見ずにとりあえず数字だけを決めてみたという状態に近いと思っています。

外国人教員だから、E2 科目だから、コミュニケーションが自然に発生するわけではありません。E2 科目(または E1, 2, 3 科目すべて)を特別なもののようには扱わないでほしいと思います。日本語で行われる授業と同じくらい充実した科目が開講されて、自由に選べるようになるのが理想だと思います。もちろんそんなに外国人教員の比率は大きくならないと思いますが、E2 科目がいまのように特別枠のようにしている状態は良くないということをお願いしたいです。今は小学生からの英語教育も始まっていますし、ゆくゆくは英語リーディング、英語ライティング・リスニングが必修である必要もなくなるでしょうし、選択科目として残るとしても内容の刷新が求められるでしょう。

【回答】(回答日：2018 年 6 月 21 日)

(国際高等教育院事務部)

貴重なご意見として、参考にさせていただきます。